

NEWS

一般社団法人 愛知県産業廃棄物協会 第8回「安全大会」開催

- ・日時：1月29日（水）午後1時30分
- ・場所：名古屋国際会議場
141・142会議室（名古屋市熱田区）
- ・参加者：75社 99名

「安全大会」の開会の辞を安全衛生委員 近藤千雅氏が述べ、開催の挨拶で会長 永井良一氏は「令和4年度目標である、“死亡者数をゼロにする”では、令和元年12月末において1名、“休業4日以上”の死傷者数を平成24年から26年の実績平均の67人に対して20%以上減少させ53人以下とする”では、令和元年12月末において64名となり目標値を大きく上回っておりますので、労働災害防止対策を会員の皆様と共に推進して参ります。」と述べました。



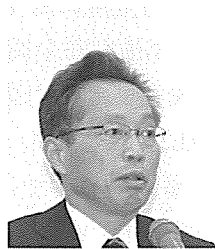
開会の挨拶をする
永井会長

安全衛生委員長 伊藤泰雄氏は「本日、午前のリスクアセスメント研修では事故リスクの抽出、点数化することによりリスクを低減するための対策をディスカッションしました。しかし安全対策に100%はありません。継続し新たな対策、新たな危険の予知をすることが重要です。このような意識を午後の安全大会においても習得していただけるよう願っております。」と述べました。



挨拶をする
伊藤委員長

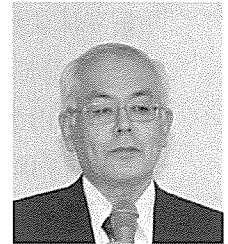
来賓の挨拶で、愛知労働局労働基準部安全課長 西田吉治氏は「現在産業廃棄物処理業の事故が多発しておりますので、最近の労働災害の発生状況、災害防止対策の取り組みについて、配布資料を元に業種別死亡災害及び廃



来賓挨拶をする
西田安全課長

棄物処理業の事故の型別発生状況等について少しお話しをいたします。」と述べました。

講演会は「高齢労働者の労働災害防止」と題して、中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンター安全管理士・衛生管理士 鈴木達始氏を講師としてお迎えしました。



講師の鈴木安全管理士・衛生管理士

始めに高齢者雇用の背景について説明があり、高齢労働者の労働災害の特徴として、愛知における死亡災害は50代以上が全体の54%を占め、事故の型は“転倒”が多く、足元の力が弱い、反射の力が衰える、などが要因ではないかとのこと。また、加齢に伴う身体機能の低下として、視力、聴力、バランス能力、脚力などが挙げられ、知識・技能は使用するほど維持できますが、個人差があるとのこと。



高齢労働者の安全と健康確保のためにも「エイジアクション100」(QRコード)を参考に職場改善を進めてくださいとのことでした。

安全衛生の取組事例発表では、サンコーリサイクル（株）事業管理部主任 山田晃博氏から「安全への取り組み」と題して発表がありました。



事例発表をするサンコーリサイクル（株）山田主任

明倫運輸（株）業務グループリーダー 角崎則彦氏から「安全衛生取組事例」と題して発表がありました。



事例発表をする明倫運輸（株）角崎リーダー

安全宣言は安全衛生副委員長 相木 徹氏が宣言を行い、近藤委員が閉会の辞を述べ安全大会は終了しました。